

2018/09/23

「献堂記念礼拝」のメッセージ

■神の福音は信じることでしか受け取れない

「十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。」（Ⅰコリント 1:18）

「事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。」（Ⅰコリント 1:21）

「十字架のことば」とは、私たちが造った神が、私たちの友となるために人となってこの世に来られ、すべての罪を赦し、あなたのために十字架に架かるほどにあなたを愛し、救ってくださるという教えです。そして、この救いは、頭のいい人や行いの良い人にではなく、信じる人に与えられます。

こんなことがあってもよいのでしょうか。どんなに悪事を働いた人であっても信じれば救われるなど、この世界の基準では、とても理解できません。神の福音は、人間の基準で理解できるものではなく、信じることでしか受け取れないのです。

■なぜ信じることを要求するのか

この世界は、能力や行いで人の価値を判断します。悪いことをしたら罰を与え、良いことをしたらほうびを与えるのは、その一つです。しかし、誰かと比較して判断するこの価値観は、人をつらくします。完璧な人はいないからです。また、この価値観のために、神を理解することもできません。

つまり、私たちがをつらくしている人間的な物差しを廃棄しなければ、人は幸せになれないのです。人間的な価値基準を廃棄するとは、キリストを通して見るということ、つまり、信じるということです。そうすると、本当の自分の姿が見えてくるようになります。

「ですから、私たちは今後、人間的な標準で人を知ろうとはしません。かつては人間的な標準でキリストを知っていたとしても、今はもうそのような知り方はしません。だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」（Ⅱコリント 5:16-17）

自分を苦しめているのは、人間的な標準で生きる生き方です。神を信じて信頼する者は、神は本当に生きて働いておられることを体験するので、失望することがありません。

人間的な標準を捨て、神を信じて生きていきましょう。